

16. Phenobarbital の鶏胚における催心奇形性の検討

(第二病理) ○西川 俊郎・梶田 昭
(実験動物中央施設) 金井 孝夫

抗痙攣剤である phenobarbital (PB) は人において催心奇形性が疑われているが、実験動物で確認された報告は少ない。我々は発生初期の鶏胚に PB を投与して、その催心奇形性、とくに心血管系に対する作用について検討した。孵卵4日目の鶏胚に1~25 μ mole (μ m) の PB を投与し、孵卵14日目に解剖して検索すると、PB5 μ m 以上投与した群に心血管奇形が認められ、平均発生率は67%であった。次に鶏胚心の心機能に対する PB の影響をみるために PB 投与前後の心拍数の変化を調べた。卵殻に作製した観察用窓から実体顕微鏡下に鶏胚心の収縮を観察し、心拍数の計測を行なった。PB 投与群は対照群に比べて有意に心拍数の低下がみられ、不規則な収縮(不整脈)が認められた。不整脈が長く続いた群には兩大血管右室起始や大動脈右方転位などの複雑な心奇形が多くみられ、PB による胎児の血行動態の変化と心奇形発生との間に何らかの関連があると考えられた。

17. 剖検例500例における kinetic cell death の発生頻度

(第一病理)

○寺岡 邦彦・武石 詢・豊田 智里・
金田 良夫・岩崎 智彦

(心研内科) 金子 昇

目的並びに研究方法：私達は心筋梗塞の本態は心筋細胞の過収縮、過伸展による瞬間的な破壊、即ち kinetic cell death (KD) であるとする立場から検討を進めている。今回、長径2cm 以上の KD がどのような例に発生しているのか、また心肺蘇生術と KD との関係、並びに死後時間と KD との関係を明らかにする目的で、当教室で解剖した連続500例の剖検心について検討し、更に心肺蘇生術と KD の関係について、最近の31例を用いて検討したので報告する。結果：1) 500例中57例(11.4%)に KD を認めた。57例の内訳は急性心筋梗塞23例(40.4%)、突然死並びに急死19例(33.3%)、心臓手術後急性期死亡例8例(14.0%)、その他7例(12.3%)であった。2) 各々の KD 発生頻度は急性心筋梗塞23例中23例(100%)、突然死並びに急死29例中19例(65.5%)、心臓手術後急性期死亡例28例中8例(28.6%)であった。3) 心肺蘇生術、並びに死後時間の長さは KD とは無関係であった。